

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

4月号

(第175号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住 話職

他力とは阿弥陀仏の本願のはたらき



正信心 仏偈に学ぶ
注 還 回 向 由 他 力
正 定 之 因 唯 信 心
注 還 の 回 向 は 他 力 に よ る 。
正 定 の 因 は た だ 信 心 な り 。

「現代語訳」
注 相 も 還 相 も 他 力 の 回 向 で
あ る と 示 さ れ た 。 「 浄 土 へ
注 生 す る た め の 因 は 、 た
だ 信 心 一 つ で あ る 。

親鸞さまは『教行信証』
に、

そもそも、衆生が浄土に
生まれることも、浄土に生
まれてからさまざまはた
らきをあらわすことも、み
な阿弥陀仏の本願のはたら
きによるのである。
と、曇鸞大師の『往生論註』
を引かれています。曇鸞大師
は、初めて「他力」という言
葉を使われ、阿弥陀仏の本願
のはたらき（他力）こそが、
速やかに人間を救うことであ
るとあきらかにされました。

そして、同じく曇鸞大師は続
けて、

なぜなら、もし仏力によら
ないのであれば、四十八願
が設けられたのは無意味な
ことになるからである。

と、その理由を述べられてい
ます。法蔵菩薩が願われ、そ
の願いが叶わないようなら私
は仏にならないといわれた
四十八の願いのことです。こ
の「正信心仏偈に学ぶ」連載
が始まったばかりの令和五年
二月号の寺報にふれていま
す。その願いが私たちにはた
らきかけてくださっているこ
とを「他力本願」というので
す。一般に「他力本願」とは、
他人まかせのような意味に使
われますが、本来は全く違
います。救いが阿弥陀仏の本願
のはたらきによるものでなけ
れば、法蔵菩薩が願われたこ
とも無意味なことになるとい
われているのです。

私事になりますが、佐久市
にお寺の活動拠点を移してか
ら早いもので二十年になりま
す。何とか二十年というのが
実感で、少し無謀な決断でも

ありダメだったら：というこ
とも考えました。人生努力の
積み重ねと言われるように、
努力することは美德のように
いわれることもありませす。し
かし、その努力が報われなか
ったり、したくても出来なか
つたらどうでしょうか。そう
いう経験をお持ちの方もおら
れると思います。

しかし、変わることはない
真実に気づき振り所が見つか
ったときに何とも言えない安
ん感が生まれるものです。私
にとつて、それが「阿弥陀さ
ま」でした。この寺報も拠
点を移すことがきっかけで、自
身の研鑽のために始まったも
のです。そんな中で、経験し
苦悩し努力し学び気づくと、
「守られている」という安心
感が生まれ、前に進むエネル
ギーになっていきましました。私
にとつての阿弥陀さまはそん
な存在です。

「正定之因唯信心」には
ふれられませんでした。後
に続く内容な
ので次回にします。



仏教語豆事典

安心

浄土真宗では「アンジン」

テレビや新聞のニュースを見ていると、不安なことばかりです。

親が子を殺し、子が親を殺す。友人を殺し、幼児を誘拐して、老人をだます。お金のためなら何でもするような事件が多いですね。

これでは、安心して暮らしていけなくなりました。

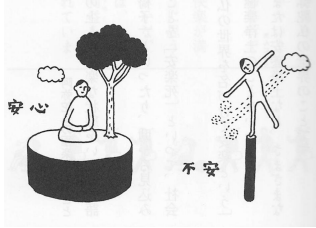
安心とは、心配がなく心が安らかなことをいいます。赤ちゃんが母親の胸の中で安心して切っけ眠っているような状態ですね。

仏教では、仏法によって心の安らぎを得て、動ずることのない境地をいいます。

禅宗では「アンシン」と読み、修行によって得られる安定した心の境地をいいますが、浄土真宗では「アンジン」と読んで、阿弥陀仏の本願を信じ、念仏して浄土に往生できると確信して疑われない心をいいます。

「安心立命」は、天命を知って心を安んじ、何事にも揺らぐことのない境地の意味ですが、安心は仏教語、立命は儒教語です。

いずれにしても、安心できる世の中になって欲しいものですね。



行脚

お釈迦さまも奨励した旅

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也」

『奥の細道』の有名な冒頭の文です。松尾芭蕉が元禄二年(1689)、江戸深川を出発し、門人曾良とともに奥羽北陸を行脚した旅から三百年以上経ちました。

行脚とは、僧が一定の住所をもたず、師や友を求め、自分の修行や教化のために、処々を遍歴することで、仏道修行のための旅のことをいいます。

お釈迦さまは弟子たちに「これからは世の人びとの利益と幸福を実現するために、国内をくまなく遍歴せよ」と教えました。

寺院仏教が発展してからは定住化しましたが、中国では禅宗が興隆して、諸国行脚が盛んになったといえます。

行脚僧は行く雲や流れる水のように、足にまかせて諸国を遍歴するので、雲水ともいいます。俳人たちの諸国旅行もまた、行脚といえます。

今では、行楽地は車でいっぱいですが、これを機会に一度、徒歩で旅をしてみませんか。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平 / 本願寺出版社刊より

編集後記

「正信念仏偈に学ぶ」と「仏教語豆事典」は、ともに「安心」を取り上げました。本心に偶然で、編集を終えてから気づきました。◆しかし、現実には目を向けると、戦争、物価高といった問題が山積で「不安」なことばかりです。少しでも安心できる世の中になって欲しいものです。



年忌法要表

1 周忌	2025(令和 7)年	23 回忌	2004(平成16)年
3 回忌	2024(令和 6)年	25 回忌	2002(平成14)年
7 回忌	2020(令和 2)年	27 回忌	2000(平成12)年
13 回忌	2014(平成26)年	33 回忌	1994(平成 6)年
17 回忌	2010(平成22)年	50 回忌	1977(昭和52)年